

## 令和5年度に実施した生徒指導に関する研修 を通して定めた指導の方向性

### 【小学校】

- ①当該児童について協議・共通理解した上で、チームとして対応する。
- ②ソーシャルスキルトレーニングなどを通して、将来に生きる力の育成に努める。
- ③児童の自己肯定（有用）感を高め、共感的な集団をつくるための手立てを講じる。
- ④それぞれの児童の特性を理解し、その特性に応じた適切な支援を講じる。

### 【中学校】

- ①ケース会議を開き、課題や解決の方向性を教職員全体で共有し、チーム学校として対応する。
- ②当該不登校生徒だけではなく、他の生徒の心も耕し、共感的な集団の構築に努める。そのための教師による意図的な仕掛けをする。
- ③生徒の自己有用感を高める手立てを講じる
- ④学校だけですべて解決しようとするのではなく、専門機関等との連携を推進し、課題解決を図る。

### <令和6年度 上小阿仁小中学校としての重点事項>

小・中共通で多く出されたキーワードは「チーム」と「自己肯定（有用）感」であった。そのため、令和6年度における共通実践事項を次の二つとする。

- ①**当該児童生徒について全員で共通理解を図り、チームとして課題解決に努める。**
- ②**自己肯定（有用）感を育む具体的な手立てを講じる。**